

[プレスリリース]

世界的アーティスト アントニー・ゴームリー、キキ・スミス  
新作オリジナル木版画 完成披露展示  
— 現代作家と職人が挑んだ新たな木版表現 —

(公財) アダチ伝統木版画技術保存財団

広報担当 渡邊、中山

電話：03-3951-1267 ファックス：03-3951-2137

メールアドレス：adachi@adachi-hanga.com

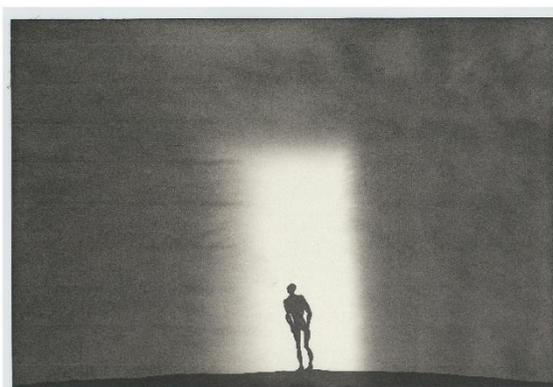
ニュースダイジェスト

[2026年3月2日]

公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団（東京都新宿区）は、英国を代表する彫刻家アントニー・ゴームリー氏、ならびにアメリカを拠点に国際的に活躍するアーティスト、キキ・スミス氏による新作オリジナル木版画の完成披露展示を開催いたします。（会期：2026年3月12日（木）-3月28日（土）於：目白常設展示場）

今回完成した木版画は、江戸時代から受け継がれてきた伝統木版技術を用い、アダチ版画研究所の彫師・摺師との協働のもと制作されたものです。それぞれの作家の構想に応じて、和紙のにじみや色の重なりを生かしながら摺り上げられた作品は、伝統木版技術が現代美術の中で新たな表現へと展開しうる可能性を示唆しています。本展では完成作品の展示に加え、アーティストインタビュー映像や制作に使用した版木などを紹介し、制作の背景をご覧ください。

また、同会場では3月の開催にあわせ、日本の春を象徴する「桜」を題材とした浮世絵復刻作品も展示いたします。江戸以来の伝統木版技術による復刻作品と現代作家による新作をあわせて紹介することで、技術が時代を超えて生き続けている姿をご覧ください。

ニュースの背景

浮世絵の「浮世」が本来「当世風の」という意味を持つように、浮世絵は常にその時代の社会や価値観を映し出す表現であり続けてきました。そうした歴史や制作の担い手にあらためて光があたる契機として、2025年のNHK大河ドラマ『べらぼう』では、歌麿・写楽を生み出した版元・蔦屋重三郎を主人公に、版元・絵師・彫師・摺師といった人々が描かれました。これにより、浮世絵木版画の世界は改めて広く注目を集めています。財団は、江戸時代以来受け継がれてきた彫師・摺師の高度な分業制による木版技術を守り伝えるとともに、次代を担う技術者の育成を主軸として活動を続けてきました。現在では、研修制度か

ら育った 20 代・30 代の若い彫師・摺師が業界の第一線で活躍しています。財団では、こうした若い担い手が実践の中で技術を深化させる場として、国内外のアーティストと協働する「国際創造プロジェクト」を継続的に展開してきました。伝統技術を基盤としながらも、現代の表現と真摯に向き合うこの取り組みは、木版画の可能性を広げる試みでもあります。2025 年春には、東京国立博物館・表慶館にて開催された「浮世絵現代」展において、本プロジェクトの成果を展覧し、国内外から多くの来場者を迎えました。本展で披露する両作家の新作木版画は、そうした継続的な取り組みの中で実現した成果の一つであり、伝統木版技術が今を生き、未来へと受け継がれていく姿を示すものです。

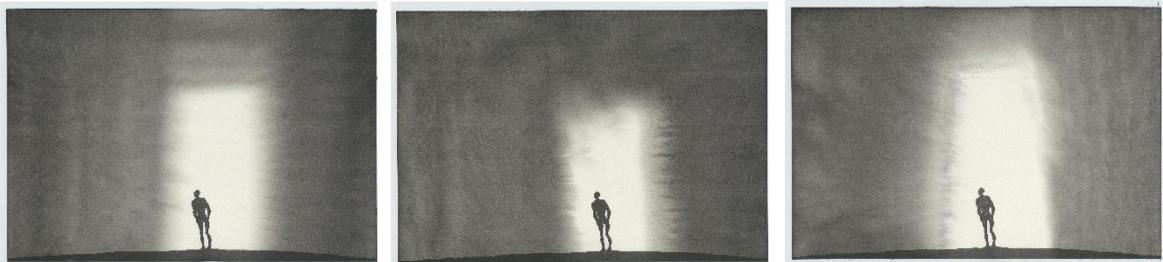
### みどころ

今回新作木版画を発表するのは、自身を型取りした人体彫刻で知られ、東京オペラシティをはじめ、日本国内の公共空間にも作品が設置されているアントニー・ゴームリー氏。そして、NY のグランド・セントラル・マディソン駅に大規模なモザイク作品が常設されるなど、国際的に活躍するキキ・スミス氏。この二人の世界的アーティストが提案した両作品は、いずれも実験的な試みであり、従来にない制作過程を経て実現したものです。アーティストと彫師・摺師たちの協働の中から、新たな木版表現が生まれています。

### ◎ アーティストと職人の協働が生んだ新たな木版画 アントニー・ゴームリー「RAPT」

アントニー・ゴームリー氏は、まず自身で合計百枚の和紙一枚一枚に筆で墨を施し、そのにじみの中に光の窓のような開口部を創り出しました。摺師は、その一枚ごとのにじみの形状に応じて版木を摺る位置を細かく調整しながら、画面に人物像を配しました。そのため本作は版画でありながら一点一点が異なり、固有の表情を持ちます。

「伝統を伝統のままに終わらせず、今の時代の条件に照らし合わせて、柔軟に新しいものを創り出すことが必要であり、それは我々にとって必要な冒険なのです。」(ゴームリー氏の言葉)



会場では5点を並置し、その世界観をご覧ください。あわせて、制作についてアーティストが語るインタビュー映像も上映いたします。

### アントニー・ゴームリー (Antony Gormley)



1950年英ロンドン生まれ。人体と空間の関係を探求する彫刻作品やパブリックアートで広く評価されている。これまでロダン美術館(2023年)、レームブルック美術館(2022年)、ナショナル・ギャラリー・シンガポール(2021年)、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ、ウフィツィ美術館、フィラデルフィア美術館(2019年)、龍美術館(2017年)、クンストハウス・ブレゲンツ(2010年)、ヘイワード・ギャラリー(2007年)、マルメ・コンストホール(1993年)などで作品を展示。主な恒久設置作品に《Angel of the North》《Another Place》《Inside Australia》。1994年ターナー賞、2012年大林賞、2013年高松宮殿下記念世界文化賞。

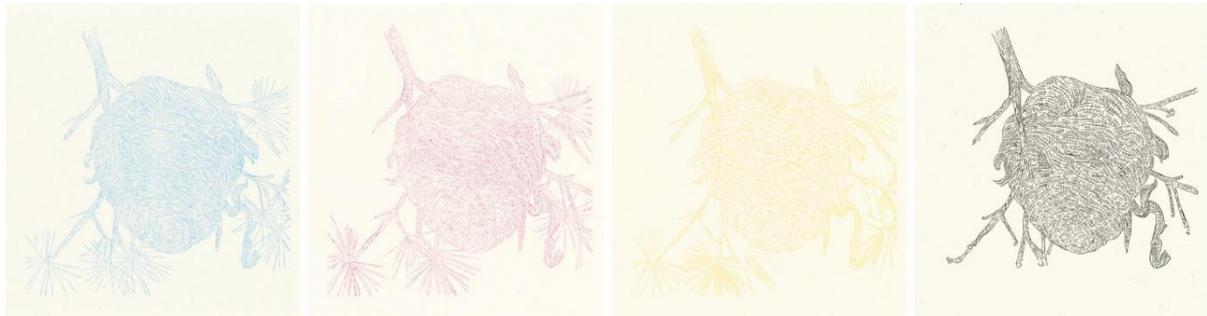
◎ **CMYK の色彩構造を木版で実験！キキ・スミス「Paper Wasps Nest」**

キキ・スミス氏による本作は、松にかかるスズメバチの巣を描いた木版画です。CMY（シアン＝青、マゼンタ＝赤紫、イエロー＝黄）の3色の線画を重ねることで、細胞組織を思わせる陰影ある灰色を生み出し、背景の淡い藍色との対比が鮮やかな画面を構成しています。CMYKは、紙などの印刷物に用いられる色の表現方法で、色を重ねるほど暗くなり、理論上は黒に近づく「減法混色」という原理に基づいています。スミス氏は、この色の仕組みを木版で重ねた場合にも同様の効果が生まれるのかを確かめようとしてきました。実際に版を重ねることで、色の重なりが予測どおりの陰影を生み出し、木版ならではの質感と深みをもたらしています。この試みは、工房にとっても前例のない挑戦となりました。



《Paper Wasps Nest》

Kiki Smith 氏によるスズメバチの巣の繊細な線描を、伝統木版の彫師が一刀一刀、版木に彫り進めていきます。



※ 「Paper Wasps Nest」のCMYK各版を、それぞれ対応する色で単色摺りしたものを並べた画像です。完成作品は、これら4版を重ね摺りすることで成立します。会場では、4版の版木を展示いたします。



**キキ・スミス (Kiki Smith)**

1954年独逸ニュルンベルク生まれ。翌年アメリカに移住。死や再生、性をテーマに、彫刻、版画、映像作品などを制作する。1990年にニューヨーク近代美術館のプロジェクトで注目を集め、2005年ヴェネチア・ビエンナーレで発表した作品が高い評価を得た。ウォーカー・アート・センター主催の回顧展「Kiki Smith: A Gathering, 1980-2005」がサンフランシスコ近代美術館やホイットニー美術館などを巡回。2009年エドワード・マクダウェル・メダル受賞。2012年アメリカ国務省芸術勲章。作品収蔵先にニューヨーク近代美術館、シカゴ美術館、メトロポリタン美術館など。

同時開催

同会場では、財団が継承に努める伝統木版技術の基本となる浮世絵復刻事業についてもあわせて紹介いたします。北斎や広重などの復刻版浮世絵を通じて、彫りと摺りの技がどのように受け継がれてきたかをご覧ください。3月の開催にちなみ、日本の春を象徴する「桜」を題材としたアダチ版復刻浮世絵を展示いたします。



↑ 技を極め、贅を尽くした特注品 葛飾北斎《桜花に富士図》

葛飾北斎《神奈川沖浪裏》摺りの工程と制作道具→  
 版木や制作道具を通して、名作が完成するまでの工程と、職人の高度な技をご紹介します。

アダチ伝統木版画技術保存財団について

世界に誇る日本独自の印刷技法でありながら、他の印刷技術の発展・技術者の減少などによりその存続が危ぶまれる伝統木版画の技術。アダチ伝統木版画技術保存財団は、この技術を保存し、次代に伝えることを目的として平成6年に文部科学省認可の財団として設立、平成25年に内閣府管轄の公益財団法人へ移行した。東京・目白に常設展示場をかまえ、後継者の育成、啓蒙普及などの活動を行っている。近年では、草間彌生氏や李禹煥氏、加藤泉氏をはじめとする国内外で活躍する現代美術のアーティストとのコラボレーションに力を入れ、世界に向けて伝統木版技術の魅力を発信することに努めている。母体は、1928年創業の木版工房・版元であるアダチ版画研究所。 <https://www.adachi-hanga.com/>

展覧会詳細

世界的アーティスト アントニー・ゴームリー、キキ・スミス

新作オリジナル木版画 完成披露展示 — 現代作家と職人が挑んだ新たな木版表現 —

会 期：2026年3月12日（木）～3月28日（土）

【日曜・月曜・祝祭日 休館】

時 間：火～金曜日 午前10時～午後6時

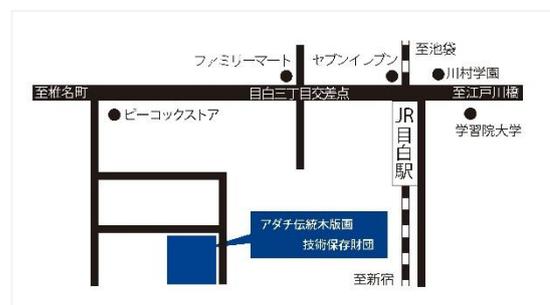
土曜日 午前10時～午後5時

入場料：無料

会 場：公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団  
 常設展示場

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-13-17

JR 目白駅より徒歩10分



※本展出品作品は、会期中にアダチ版画研究所にて抽選販売を予定しております。詳細につきましては、会場または公式ウェブサイト (<https://www.adachi-hanga.com/>) にてご案内いたします。